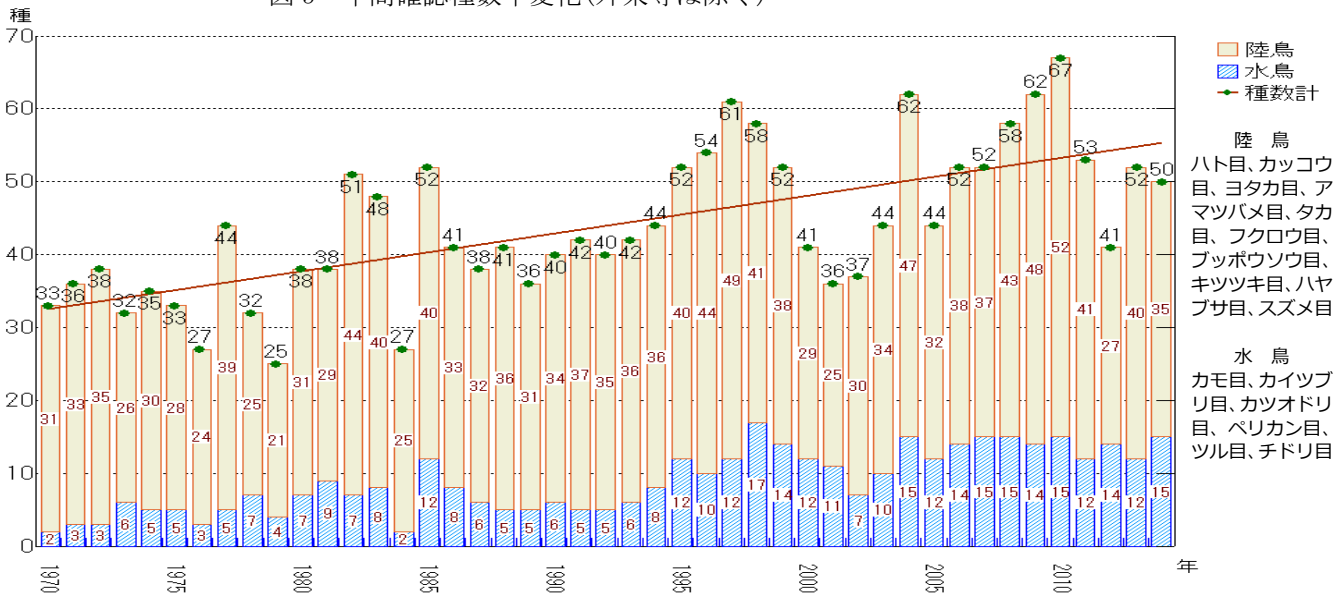
表１　保護上重要な種 R-2、R-3

カテゴリー名と基本概念（資料より抜粋）		種　名
国	**絶滅危惧Ⅱ類**（絶滅の危険が増大している種）	ミゾゴイ、サシバ、サンショウクイ　3 種
	準絶滅危惧（現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のあるもの）	ヨタカ、ノジコ　2 種
東京都区部	**絶滅**（当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育･栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの）	サンコウチョウ、チゴモズ、コサメビタキ　3 種
	絶滅危惧ⅠA 類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）	ヨシゴイ、ササゴイ、ツミ、オオタカ、フクロウ、アオバズク、アカモズ　7 種
	絶滅危惧ⅠB 類（ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）	オシドリ、コアジサシ、チュウヒ、ハイタカ、ノスリ、アオゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、コヨシキリ　9 種
	絶滅危惧Ⅱ類（現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの）	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、ホトトギス、ヒメアマツバメ、コチドリ、ヤマシギ、オオジシギ、タシギ、キアシシギ、イソシギ、カワセミ、モズ、ヤマガラ、ヒバリ、オオヨシキリ、トラツグミ、セグロセキレイ、ベニマシコ　20 種
	準絶滅危惧（現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの）	カイツブリ、アカエリヒレアシシギ、トビ、ウソ、イカル、クロジ　6 種
	情報不足（環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの）	クイナ、コチョウゲンボウ、チゴハヤブサ、イソヒヨドリ、コジュリン　5 種
	非分布（生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域ではないと判断される場合は、非分布として扱った）	ミゾゴイ、サシバ、サンショウクイ、アオバト、ツツドリ、カッコウ、アマツバメ、オオコノハズク、アカショウビン、アカゲラ、キクイタダキ、ヤブサメ、エナガ、メボソムシクイ、ミソサザイ、マミジロ、クロツグミ、コマドリ、コルリ、サメビタキ、オオルリなど　25 種

野鳥の記録の変化をみると、1970 年代からコゲラ、カワセミが区内で見られるようになっています。1980 年代からは、アオサギ、ダイサギ、コサギなどのサギ類が公園や住宅内の小さな池に見られるようになり、区内各地から観察例が寄せられるようになりました。キンクロハジロ、ホシハジロなどのカモ類は、1990 年代以降に目黒川や碑文谷公園弁天池等に冬鳥として飛来するようになりました。外来種のコジュケイは、1980 年代以降、ほとんど観察されなくなっています。

1970 年以降の年間確認種数は図 5 のとおりです。種数は年々増加傾向にありますが、これは、観察者数の増加も一つの要因になっていると思われます。年ごとの増減は、主に旅鳥、冬鳥の確認種数の変化によると考えられます。

図 5　年間確認種数年変化（外来等は除く）



●生物多様性と野鳥

１）目黒区生物多様性地域戦略　ささえあう生命の輪　野鳥のすめるまちづくり計画

生物多様性には、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の３つレベルがあるとされ、私たち人間の暮らしはこれら生物の多様性のもたらす恵みを享受することによって成り立っています。現在、世界中の人間の消費活動の負荷などによって生物多様性の損失が進んでいます。生物多様性地域戦略は、地域での生物多様性の確保（保全と回復）を目指す計画として策定されますが、目黒区では、「野鳥」を都市における生物多様性確保のシンボルとしてとらえ、自然と共生する社会を目指す「野鳥のすめるまちづくり」をテーマとしています。野鳥は、ペットとして飼う鳥ではなく、野外で自然に暮らしている鳥のことを指しています

２）シンボルとしての野鳥

ア　みどりのつながりのシンボル

市街地の中で大小の緑地がモザイク状に分布している目黒区では、個々の緑地を有機的に連結し、機能を連携させるネットワークの形成が重要な課題です。そこで、点在するみどりを行き来し、緑地を基盤に生活している野鳥をエコロジカルネットワーク形成のシンボルとして扱っています（P. 1）

イ　いきもののすめるみどりへの転換のシンボル

鳥類は生態系ピラミッドでは上位のいきもので、植物や昆虫等の小動物など、餌となるいきものの種類や数が豊富で生息に適した環境があるほど、多くの種の野鳥が生息できます。季節感やうるおいを感じ、自然と共生するまちづくりを目指すうえで、みどりの量の確保だけではなく、いきもののすめるみどりへと質の転換を図るシンボルとして、野鳥を位置づけています

図６ 生態系ピラミッドの概念図

ウ　区民に親しまれるまちづくりのシンボル

ウグイスの初音を楽しむ、シジュウカラやツバメの子育てに一喜一憂するなど、庭先や身近な場所に訪れる野鳥は、区民にとってやすらぎやうるおいのある生活のシンボルです。また、多様な野鳥の生息できる環境は、生物のひとつである人間にとっても暮らしやすい快適な環境であるといえます。このように、区民に親しまれ、身近な暮らしから生物多様性が確保された自然と共生する社会を目指すきっかけとなる野鳥を、まちづくりや活動のシンボルとしてとらえています

３）計画目標の３つの柱（短期目標達成年は 2020 年）

目標１　みどりの風景をまもり、いきものにやさしさのある環境をつくります

・短期目標の指標 ：野鳥の年間確認種数 50 種を維持し、70 種を目指す
：タンポポ、ツバメ等の指標在来生物種の分布率 37%→50%

目標２　自然とのふれあいを大切にしためぐろの暮らしを未来に伝えます

・短期目標の指標 ：世論調査における「生物多様性」の言葉の認知度 36.8% → 80%

目標３　すべての主体があらゆる活動で「ささえあう生命の輪」の確保を目指した協力と連携を行います

・短期目標の指標 ：グリーンクラブなど公園等で活動を行う登録団体数 106 団体→120 団体
：いきもの住民会議（活動団体・自然通信員※等の研修、交流）開催の継続

●野鳥リストについて

１）基本リスト

野鳥の観察記録データは、目黒区都市整備部みどり土木政策課が保有する各種自然環境調査に関する記録を集計・リスト化したもので、2009 年に区のホームページなどで公開した「目黒区いきもの住民台帳暫定版」（「目黒区産動植物目録：1984 年目黒区」[01-02] を基に作成）の鳥類リストの部分を更新したものです。

暫定版からの主な変更点は以下のとおりです

ア　分類、種名、学名は、日本鳥学会編日本鳥類目録改訂第７版 [R-1]（以下「鳥類目録」とします）に合わせました

イ　在来種と外来等（外来種および飼育種）を別リストとしました

ウ　2014 年までの観察情報を追加・更新しました

エ　主要な種について、観察地を示した観察地点図及び観察月バーを掲載しました

２）集計資料

ア　専門調査

目黒区が専門機関に委託して行う自然環境調査などの結果

イ　区民参加調査（自己調査）

自然通信員（表紙 3､4）による身近な生きもの調査など区民が庭や公園などで自主的に行う活動です。ウグイスの初音やシジュウカラの巣箱調査などは毎年区報で参加の呼びかけを行い、多くの観察記録が寄せられています。駒場野公園の自然観察舎･中目黒公園の花とみどりの学習館による定点調査、公園活動登録団体や小学校のビオトープ活動での観察記録も資料としています

ウ　イベント型調査

いきもの発見隊や駒場野自然クラブなど公園等で行う観察会などの調査で、専門の講師の指導により行うことが多いものです。区報などで区民に参加を呼びかけています

エ　資料調査

自治体や民間機関などの調査報告書、団体のニュースレター、出版物などの文献を調べたもの

３）集計期間

観察日は 2014 年 12 月 31 日までの記録。観察年または観察年代（10 年単位）がわかる記録を抽出しています。抽出した記録件数は在来種 19, 251 件、外来等 1, 056 件、合計 20, 307 件です

４）対象区域

目黒区内。他区にまたがる公園（都立林試の森公園の品川区区域、都立駒沢オリンピック公園・東山公園の世田谷区区域）や緑道（九品仏川緑道の世田谷区区域）は施設全域を対象区域にしました

５）対象種

野外で観察された鳥類で、在来種（日本産の種）、外来種（人為的に持ち込まれた外国産の種）の区分は鳥類目録に準拠しました。在来種であっても飼育されていたものが逃げたり、放たれたりしたもの（資料でその旨が記載されているもの）は飼育種とし、外来種と合わせて「外来等」としました。観察記録は、写真や複数の観察者の目視などで種の判定のできたものを対象としています。種が確定できないものや「ハイタカ類」「レンジャク類」などの記録は除きました。「外来等」には亜種を記したものがあります

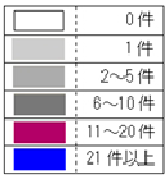
６）分類と種の表現

分類は、界―門―綱―目―科とし、学名は、属名と種小名までとしました（一部亜種まで表記しました）

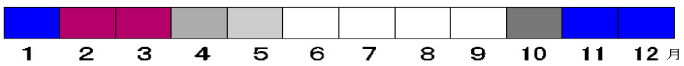
〈例〉　動物界ー背椎（せきつい）動物門ー鳥（ちょうこう）綱ースズメ目ースズメ科ースズメ　　（スズメの場合）

７）観察地点図・観察月バー

観察地点図は、観察記録の大まかな分布状況を把握する参考にしてください。図上の点は隣接する複数の街区（〇丁目〇番）を集約して表示しており、実際の観察地点とずれる場合があります。また調査の性格上、表示のない場所に分布していないことを示すものではありません。観察月バーは観察記録を月ごとに集計し、記録件数によって濃淡をつけてあります



観察月バー



８）データ処理

データは、目黒区の保有するパソコンシステムに集計しています。資料調査では、和名、学名、科名、目名を原資料の表記から、鳥類目録の新しい表記に変更したものがあります

９）リスト中の表記、略号

ア　【記録】

観察記録の内容です。**件**数は、登録されている記録件数です。**〇**は、 観察記録の例示で、種の特性を表すものなどを抽出しています。**※**は、引用した資料の番号（表紙 3 参照）です。転記に際して内容を一部要約しています。文中の観察地は町名を記載しています。公園等の施設の所在地は P. 6 を参照してください。旧林業試験場は現都立林試の森公園、旧東京教育大学は現駒場野公園です

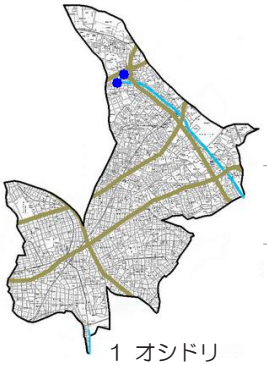
イ　用語、略号

♂：オス　**♀**：メス　**幼**：幼鳥（ヒナが巣立ち後、成鳥になる前の時期。羽の模様が成鳥と異なるものが多い）　**繁殖期**：繁殖を行う時期（多くの鳥類では春から夏など餌の豊富な時期に繁殖する）　**夏羽**：繁殖期の羽（冬羽に比べ派手な場合が多い）　**冬羽**：繁殖期以外の羽（夏羽に比べ地味な場合が多い）　**さえずり**：繁殖期の声（メスを呼んだり、縄張り宣言のため種固有の節回しや音色で鳴く。本格的なさえずりにならないものを「ぐぜり」という）　**地鳴き**：さえずり以外の声（危険を知らせたりするもので、通常短く鳴く）　**まれ**：観察件数が数件以内で区内でほとんど観察されていないもの

10）目黒区の野鳥を調べるときは、市販の図鑑のほか、身近な生物を紹介した小図鑑『めぐろのいきもの 80 選』（目黒区発行：表紙 4）もご活用ください

●目黒区の野鳥（在来種）

動物界 ANIMALIA—脊椎（せきつい）動物門 CHORDATA—鳥綱（ちょうこう） AVES


1 オシドリ

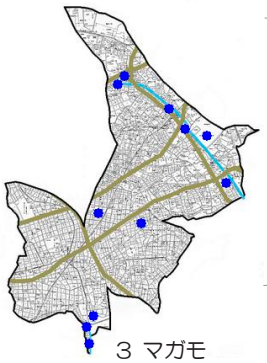
■カモ目 ANSERIFORMES—カモ科 ANATIDAE

1 オシドリ　*Aix galericulata*　**東京都区部：絶滅危惧ⅠB類**

冬鳥。1997 秋から 2 年にわたり目黒川の大橋、東山付近でオス 1 羽が越冬した
【記録】12 件 ○1997 年 12 月 8 日目黒川（東山）♂1 羽 マガモの数羽の群と越冬

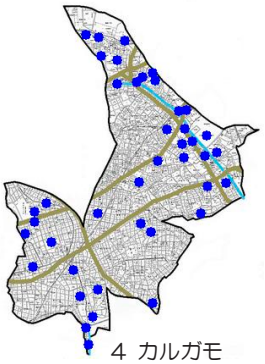
2 ヒドリガモ　*Anas penelope*

冬鳥【記録】1 件 ○1985 年 9 月 26 日防衛省技術研究所（中目黒）1 羽※01-10


3 マガモ

3 マガモ　*Anas platyrhynchos*

冬鳥。目黒川や呑川、碑文谷公園や清水池公園の池で越冬する【記録】36 件
○2007 年 2 月 4 日呑川（緑が丘）♂5 羽♀4 羽 川床の藻を食べる
○2011 年 11 月 2 日目黒川（東山） ♂3 羽♀2 羽


4 カルガモ

4 カルガモ　*Anas zonorhyncha*

留鳥。繁殖。目黒川や公園・学校の池などに飛来。1980 年代から各地で繁殖
【記録】473 件 ○2004 年 4 月 28 日月光原小学校（目黒本町）2 羽 プール脇に営巣 卵 2 個○2005 年 6 月 20 日目黒区総合庁舎屋上「目黒十五庭」開園前、ヒメコマツの鉢に営巣○2008 年 5 月 30 日中根小学校（緑が丘）2 羽 ビオトープの池に飛来○2012 年 5 月 16 日目黒区総合庁舎池
親 1 羽、孵化直後のヒナ 9 羽

5 オナガガモ　*Anas acuta*

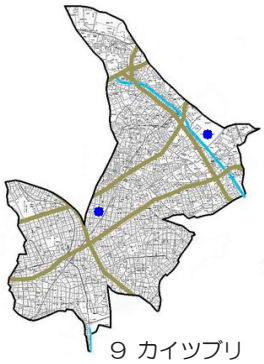
冬鳥。1990 年代から目黒川や碑文谷公園の池で越冬する【記録】115 件
○1997 年 5 月 18 日駒場野公園♀1 羽 2 月から大池に滞在（この時期の記録は珍しい）※04-03○2014 年 11 月 26 日目黒川船入場 35 羽○2014 年 12 月 27 日呑川（緑が丘）♂5 羽♀15 羽程度

6 コガモ　*Anas crecca*

冬鳥。主に 1990 年代から目黒川や碑文谷公園の池などで越冬する
【記録】156 件 ○2012 年 4 月 8 日東京工業大学♂5 羽♀3 羽以上 ひょうたん池
○2014 年 11 月 26 日目黒川船入場 5 羽

7 ホシハジロ　*Aythya ferina*

冬鳥。1990 年代から目黒川や碑文谷公園などの池で越冬する【記録】56 件
○1995 年 1 月 17 日碑文谷公園 35 羽 池に落ちたクヌギの実を潜って採る
○2009 年 12 月 22 日目黒川（中目黒）9 羽


9 カイツブリ

8 キンクロハジロ　*Aythya fuligula*

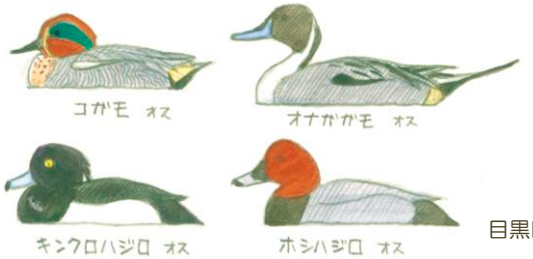
冬鳥。1990 年代から目黒川や碑文谷公園、清水池公園の池で越冬する
【記録】86 件 ○2012 年 1 月 11 日清水池公園 9 羽
○2013 年 2 月 8 日碑文谷公園♂66 羽♀12 羽
○2014 年 12 月 24 日目黒川船入場 32 羽

■カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES—カイツブリ科 PODICIPEDIDAE

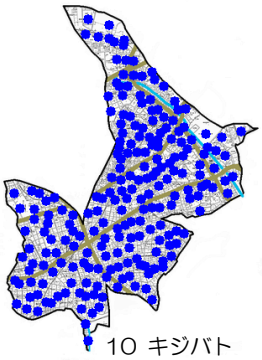
9 カイツブリ　*Tachybaptus ruficollis*　**東京都区部：準絶滅危惧**

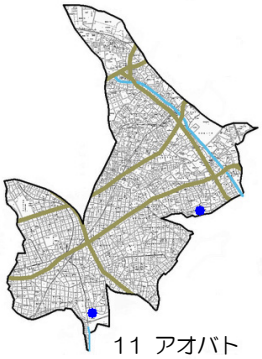
冬鳥。碑文谷公園の池などに時々飛来。1990 年代まで中目黒で繁殖の可能性
【記録】23 件 ○1982 年 7 月 9 日防衛庁技術研究所 1 羽※03-01
○2005 年 3 月 14 日碑文谷公園 冬羽 1 羽

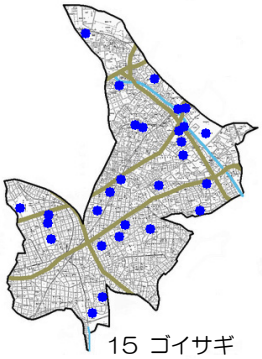
マガモの♂と♀（手前）

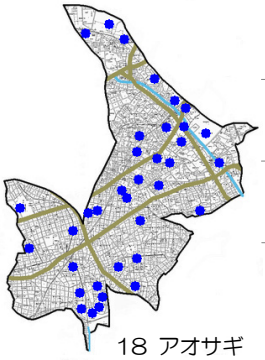


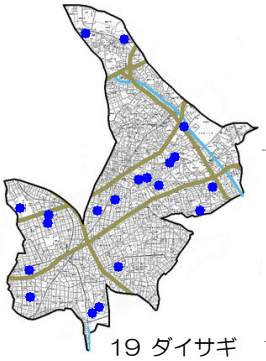
目黒区の主なカモ類の比較（オス）


10 キジバト


11 アオバト


15 ゴイサギ

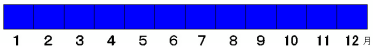

18 アオサギ


19 ダイサギ

■ハト目 COLUMBIFORMES—ハト科 COLUMBIDAE

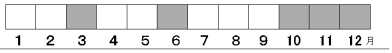
10 キジバト *Streptopelia orientalis*

留鳥。繁殖。一名ヤマバト。民家の庭木や建物などで営巣している
【記録】926 件 ○1982 年 4 月 3 日中目黒駅ホーム屋根に営巣※04-01
○2012 年 6 月 1 日目黒十五庭
エゴノキに営巣※04-05



11 アオバト *Treron sieboldii* **東京都区部:非分布**

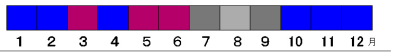
旅鳥【記録】14 件 ○2004 年 10 月 24 日東京工業大学 2 羽 ひょうたん池脇の桜の樹冠近くに 2 羽近づいてとまる○2010 年 12 月 25 日都立林試の森公園♀1 羽池に水を飲みに来る



■カツオドリ目 SULIFORMES—ウ科 PHALACROCORACIDAE

12 カワウ *Phalacrocorax carbo*

留鳥。上空通過記録が多い。目黒川船入場や碑文谷公園などの池では数羽が飛来し魚を捕る【記録】210 件 ○1998 年 3 月 1 日目黒川船入場 2 羽 大雪の中、岩の上にとまる いきもの発見隊○2010 年 11 月 7 日東京工業大学 400 羽以上 上空を通過



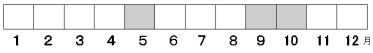
■ペリカン目 PELECANIFORMES—サギ科 ARDEIDAE

13 ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* **東京都区部:絶滅危惧ⅠA類**

まれ【記録】1 件 ○1974 年 10 月旧林業試験場※02-01

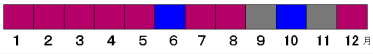
14 ミゾゴイ *Gorsachius goisagi* **国:絶滅危惧Ⅱ類 東京都区部:非分布**

旅鳥。都立林試の森公園での記録。旧林業試験場時代は少数が留鳥
【記録】3 件 ○1974 年 10 月旧林業試験場※02-01
○2010 年 5 月 2 日都立林試の森公園 1 羽
○2014 年 9 月 27 日都立林試の森公園 1 羽



15 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

留鳥。夜間上空通過が多い。目黒川や碑文谷公園等の池で魚などを捕る
【記録】187 件 ○1987 年 9 月 3 日駒場野公園 3 羽 いずれも幼鳥 駒場野自然クラブ活動※04-01○2011 年 1 月 6 日
目黒川船入場 7 羽 捕食、休息



16 ササゴイ *Butorides striata* **東京都区部:絶滅危惧ⅠA類**

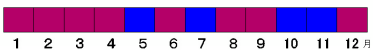
まれ【記録】1 件 ○1978 年 7 月 16 日大岡山 1 羽 22:50 頃上空を飛ぶ声※01-02

17 アマサギ *Bubulcus ibis*

まれ【記録】1 件 ○1981 年 5 月 5 日目黒本町 11 羽上空通過※01-02

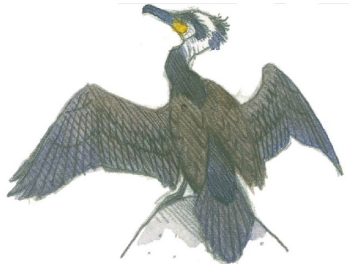
18 アオサギ *Ardea cinerea*

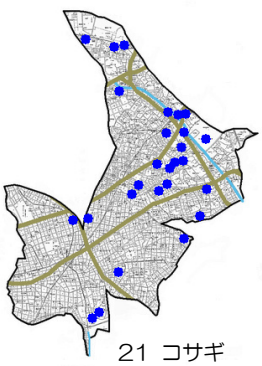
留鳥。1990 年代から民家等の小さな池で魚などを捕る行動が見られるようになった【記録】230 件 ○2008 年 5 月原町小学校(原町)1 羽 屋上のビオトープ池に降りる 児童と観察○2009 年 7 月 上目黒小学校(上目黒)1 羽 夕暮れに飛ぶ姿を 3 回目撃○2010 年 4 月 28 日南 1 羽 庭の小池に舞い降り 15cm 位のコイ(10 尾)をねらう 29 日、30 日も○2010 年 10 月 16 日大岡山 6 羽 編隊を組んで上空通過



19 ダイサギ *Ardea alba* **東京都区部:絶滅危惧Ⅱ類**

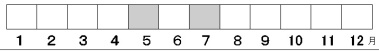
留鳥。1970 年代から民家等の小さな池で魚などを捕る行動が見られるようになった【記録】113 件 ○1998 年 4 月中目黒 1 羽 庭の水盤に来て金魚をとって行く○2003 年 10 月 16 日自由が丘 45 羽以上
18:45 頃夜空を南西方向へ飛ぶ※04-01


濡れた羽を干すカワウ


21 コサギ

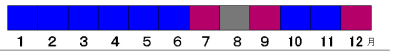
20 **チュウサギ**　*Egretta intermedia*　**東京都区部：絶滅危惧Ⅱ類**

まれ【記録】2 件 ○1985 年 5 月 30 日自由が丘 1 羽 上空通過※01-10 ○1998 年 7 月 8 日碑文谷公園 1 羽 池※04-04

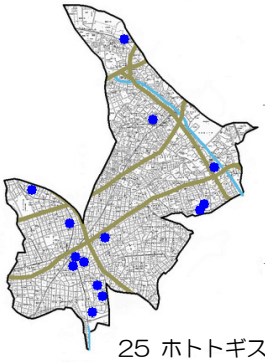


21 **コサギ**　*Egretta garzetta*　**東京都区部：絶滅危惧Ⅱ類**

留鳥。1970 年代から民家等の小さな池で魚などを捕る行動が見られるようになった【記録】290 件 ○1960～1969(昭和 40 年ころ)旧林業試験場 まれに上空通過○2004 年 4 月 15 日目黒川船入場 8 羽 小魚を捕食○2014 年 7 月 8 日中目黒公園 2 羽

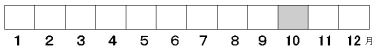


■ツル目 GRUIFORMES—クイナ科 RALLIDAE


25 ホトトギス

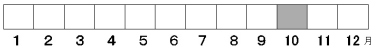
22 **クイナ**　*Rallus aquaticus*　**東京都区部：情報不足**

まれ【記録】1 件 ○1984 年 10 月 16 日 目黒本町 1 羽 落鳥(死骸)※01-02



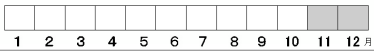
23 **ツルクイナ**　*Gallicrex cinerea*

まれ【記録】3 件 ○1981 年 10 月 20 日目黒♀型 1 羽 民家に迷いこむ○1986 年 10 月 12 日駒場野公園 1 羽 水田畔に脚と羽毛が落ちていた駒場野自然クラブ活動※04-01

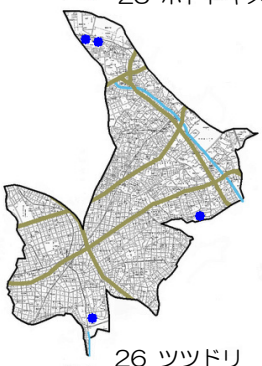


24 **オオバン**　*Fulica atra*　**東京都区部：絶滅危惧Ⅱ類**

まれ。いずれも目黒川での記録。隣接区の大田区の洗足池では生息している【記録】2 件 ○2003 年 11 月 1 日目黒川(中目黒) 1 羽 翌日まで滞在○2014 年 12 月 28 日目黒川(下目黒)1 羽 太鼓橋付近

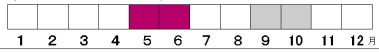


■カッコウ目 CUCULIFORMES—カッコウ科 CUCULIDAE


26 ツツドリ

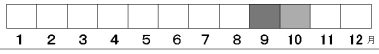
25 **ホトトギス**　*Cuculus poliocephalus*　**東京都区部：絶滅危惧Ⅱ類**

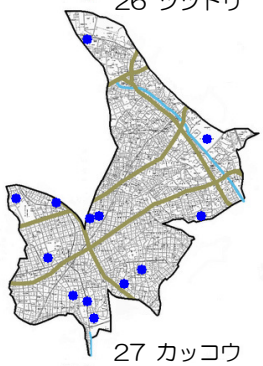
旅鳥。5 月から 6 月に、夜間に上空通過する鳴き声を聞くことがある【記録】28 件 ○2007 年 5 月 30 日都立林試の森公園 1 羽 林内からトッキョキョカキョクというさえずりが聞こえる○2008 年 5 月 27 日平町 1 羽 22:00 過ぎ移動しながらさえずる声を聞く



26 **ツツドリ**　*Cuculus optatus*　**東京都区部：非分布**

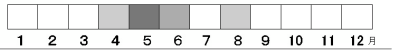
旅鳥。秋期に樹林地で記録がある。木の実や昆虫類を食べる【記録】13 件 ○1996 年 9 月 29 日駒場野公園 1 羽 コナラの樹上で毛虫を食べる 駒場野自然クラブ活動※04-03○2009 年 9 月 24 日都立林試の森公園 3 羽 サクラでケムシを捕食



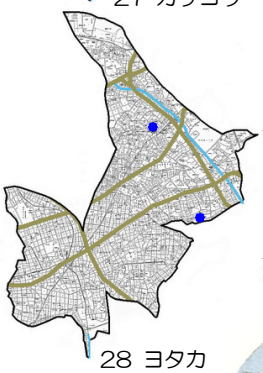

27 カッコウ

27 **カッコウ**　*Cuculus canorus*　**東京都区部：非分布**

旅鳥。主に春の渡りの時期に鳴き声の記録がある【記録】17 件 ○2010 年 5 月 12 日碑文谷公園 1 羽 朝、池畔のシイのこずえでさえずる○2014 年 5 月 28 日中目黒公園

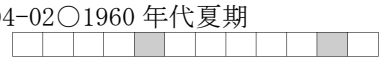


■ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES—ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE


28 ヨタカ

28 **ヨタカ**　*Caprimulgus indicus*　**国：準絶滅危惧　東京都区部：非分布**

まれ【記録】3 件 ○1941 年 5 月 8 日上目黒※04-02○1960 年代夏期 旧林業試験場※02-01



■アマツバメ目 APODIFORMES—アマツバメ科 APODIDAE

29 **ハリオアマツバメ**　*Hirundapus caudacutus*

旅鳥【記録】1 件 ○1950 年代旧林業試験場。夏期上空通過※02-01

夜間鳴きながら渡るホトトギス

●一番古い記録　江戸時代の歌舞伎役者二代目市川團十郎が家族で訪れた大円寺(下目黒)で詠んだホトトギスの句が、自筆の日記「老の楽」に次のように収録されています
『享保 19 年 6 月 4 日朝曇り、 ほととぎすこぼすほど啼く。五ツ頃より晴天。
朝くもり声を拾へや子規　　才牛　ほととぎすゝとぞ記しけり　　翠扇
杜宇ほぞんかけたか目黒みち　錦女…　』
日付は旧暦と考えられますが、享保 19 年(1734 年)は現在のところ年の記述のある記録としては一番古いものですです。参考:「郷土随筆 目黒界隈」(1961:富岡 丘蔵著)